

各位

2024年11月6日



会社名 株式会社トリプルアイズ
代表者名 代表取締役 山田雄一郎
(コード番号：5026 東証グロース)
問い合わせ先 TEL. 03-3526-2201

2024年8月期決算 決算補足資料 質疑応答集 第2回 (全2回)

この質疑応答集は、2024年10月15日(火)に行われた2024年8月期決算発表に関して、投資家の皆様よりいただいた主なご質問をまとめたものです。ご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行なっております。

「2024年8月期決算 決算補足資料 (質疑応答集) 第1回」につきましては、こちらをご覧ください。

<https://pdf.irpocket.com/C5026/n85z/XycP/PWEI.pdf>

Q 06

GPU サーバー事業の DINO Rex は空調設備が不要と聞いていますが、夏場の運用に問題はないのでしょうか？ また、空調がないことでの電力コスト削減効果は、一般的なデータセンターと比べてどのくらいなのでしょう？

A 06

DINO Rex は、高温環境でも安定して稼働できる設計になっているため、空調設備がなくても夏場の稼働に支障はありません。電力コスト削減に関しては、DINO Rex の PUE（電力使用効率）が 1.01～1.05 と非常に優れており、一般的な日本のデータセンターの PUE が 1.7 程度であることを考えると、電力コストの削減効果は大幅に高いと言えます。この高効率により、空調設備が不要な分、他のデータセンターと比べて大幅な電力コスト削減が実現されています。

Q 07

既にグループ化した会社との連携で創出された新しい事業の積極 IR もお願いしたいです。

A 07

グループ内での連携については、プロジェクトチームを立ち上げ取り組んでおり、開示できるようになりましたら積極的に IR します。現在進行中の具体的なプロジェクトについては、詳細な回答を控えさせていただきますが、グループ間のシナジーに関してはいくつかの取り組みを進めています。

まず、ゼロフィールドとは、GPU サーバーへの AI の組み込みに関する検討を行っており、このテーマに基づいたワーキンググループが定期的に活動しています。AI 技術をハイパフォーマンス PC で効率的に運用するための共同検討を行っており、技術的なシナジーを深めています。

BEX とは、特に製造業における AI の活用について取り組んでおり、こちらも専用のワーキンググループが定期的に動いています。製造現場での AI 導入に関するノウハウや技術的なアプローチを共有し、現場でのイノベーションを推進しています。

これらの技術的な取り組みに加え、3 社でのエンジニア育成にも力を入れています。すでにグループ間でのエンジニアの交流を行っており、スキルや経験の共有を通じて、各社の技術力向上を図っていく計画です。これにより、各プロジェクトにおけるシナジーをさらに強化し、今後の発展に向けた基盤を整えていきます。

Q 08

決算説明資料でいわれる「暗黙知」とはどのようなものですか？「暗黙知」が御社のサービスとどのように関係するのでしょうか？

A 08

暗黙知とは、あらゆる産業の現場における熟練技術者がもつ、形式化・マニュアル化されていないスキルや経験を指しています。これらはすぐにデータ化することが難しいため、DX 推進の大きな課題となっており、AI による活用が注目されています。

当社の AI 技術は、こうした暗黙知のデータ化に貢献できると考えております。

とはいえ、暗黙知はその性質上非常に複雑であり、即座に AI で処理できるものではありません。現実的な第一歩としては、生成 AI を活用し熟練技術者が自分の知識や経験を言語化することを支援するシステムを開発することです。これにより、現場のナレッジを整理・言語化し、そのデータを収集して AI が学習できる土台をつくります。

次に、データ化されたナレッジをもとに AI が現場作業を支援・代替・拡張するシステムを構築し、最終的には DX を加速させることが考えられます。このプロセスによって、作業の効率化や生産性向上が期待され、レガシー産業における DX を推進する重要なステップになると認識しております。

数ある AI ベンチャーがレガシー産業における暗黙知のデータ化に取り組んでおりますが、自動車業界の BEX 社のグループインや、遊戯業界のゲームカードジョイコ社との資本業務提携を通じて、現場を深く理解することで、当社は、実効性のあるシステムを開発する上でのアドバンテージがあると認識しています。

Q 09

トリプルアイズの既存事業はオーガニックな成長を達成していますか？ またこれからのポテンシャルについてはいかがでしょうか？

A 09

トリプルアイズの既存事業はオーガニックに成長しております。自社 AI プロダクトの顔認証サービスが大規模自治体で初めて世田谷区に導入され、また有料ビジネスチャットでトップクラスの LINE WORKS とのサービス連携も開始され、今後の横展開など拡がりが見込まれます。こういった象徴的な案件が増え、新規性が高く難易度の高い案件を経験してきたことで、AI サービスの受注だけでなく、それをフックとした大型システム開発の受注についてもこれまで以上に見込みが増えてきた状況です。

参考資料：

24年5月 株式会社BEXのグループインについて

<https://pdf.irpocket.com/C5026/tSnV/pz8o/O7iA.pdf>

24年9月 株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスとの資本業務提携について

<https://pdf.irpocket.com/C5026/l7Sq/bSnL/Cbyl.pdf>

24年10月 2024年8月期決算説明資料及び将来戦略資料

<https://pdf.irpocket.com/C5026/n85z/Pwnb/kuvQ.pdf>

24年10月 トリプルアイズ 2024年8月期決算説明会の模様を動画配信

*当日LIVEでの質問回答も含まれます

<https://pdf.irpocket.com/C5026/n85z/TWlx/Jfp0.pdf>